

山本 シモ子 議員
山本市の建て替えにあたっては居住者の生活に寄り添った対応を

―入居者の状況に応じ、個別に相談を実施―

問 下重原住宅(4階建て)へのエレベーター設置に伴い、2階建て住宅の建替計画がある。1月に入居者に対する説明会が行われたが、4月転居の内容に入居者はショックを受けている。対応をどう考えているのか。

答 過去に浸水被害を受けているため、施設に腐食が起こるおそれがある。入居者の安全性確保を最優先と考えている。
問 市が転居先に示している住宅は4階建ての2階から4階になる。引越しは人生設計に関わる重要な問題で特に高齢者への負担は大きい。この対応は配慮に欠けるのではないのか。

答 説明会を2回開催し、意向確認を行っている。また、新しい住宅の住戸プランを検討するに当たっては、個別相談も実施している。
問 新規住宅、借上げ、仮設住宅などで負担軽減に努めるべきと考えられているか。

答 用地の確保が難しいことや建設費の問題等もあるため、新規の建設などの考えはない。
新海 貞規 議員
教育の政治的中立性が未永く担保される施策を

―互いに連携を図り、教育施策の推進に取り組んでいく―

問 教育委員会制度の見直しにより、何が変わってくるのか。

答 改正の主なものは、教育委員会を代表する教育委員長と事務局を総括する教育長を一本化した新教育長を置くことである。新教育長は、市長が議会の同意を得て直接任免・罷免を行うこととなり、任期も4年から3年に変更される。
問 刈谷市よりよい未来像を描き上げるためにも、今後設置される総合教育会議において、政治的中立性が未永く担保され

べきではないか。
答 市長と教育委員会は、お互いの立場を尊重し、まずは子ども達が健康やかに育つことを願っている。両者の間で自由な意見を交換し、調和を図ることが大切であると考えている。これまでも、教育の政治的中立性の確保をどう考えるのか、改正前・後にかかわらず保たれていると認識しており、今後も互いに連携を図りながら、教育施策の推進に取り組んでいく。
蜂須賀 信明 議員
多文化共生の観点で子ども達に学習支援を

―お互いに理解し、成長できるよう支援策を研究していく―

問 日本語が話せない外国の子ども達に日本語の習得を図り、

は、現在約240名の外国の児童生徒がいる。新年度にプレスクール、プレクラスの語学相談員を増員する計画はあるか。
答 かりがね小と朝日小に語学相談員を配置しているが兼務の相談員もいるため、新年度は朝日小にタガログ語の相談員を単独配置する予定である。
問 多様な文化の背景を持つ外国の児童生徒が共生する教育の取り組みが必要である。人生観を大きく成長させる教育支援策を本市の教育に対して望んでいるが、外国の児童生徒に対する学習支援をどう考えているのか。

答 日本語の習得だけでなく

白土 美恵子 議員
胃がん等予防のためにピロリ菌検査の実施を

―国の指針に基づいた検査を今後も実施していきたい―

問 胃がんは、ピロリ菌感染と深く関わっている。簡単な血液検査でピロリ菌の有無や胃がんになるリスクを調べることができると、胃がん検診におけるピロリ菌検査の現状はどうか。

答 胃がん検診については、市内医療機関において胃エックス線検査を行っており、ピロリ菌検査は実施していない。
問 ピロリ菌の感染は、親子ともに口移りで食事を与えるなど唾液を介して感染する。通常4歳から5歳までに感染し、

2025年問題への不安を解消する体制構築を

―地域包括ケアシステムの構築により、在宅生活を支援―

問 2025年に団塊の世代が75歳以上になり、病院や介護施設が不足する等の大変な時代を迎える。このことを見据えて、地域包括ケアシステムを構築するとのことだが何を指すのか。

答 医療や介護、生活支援サービスが適切に提供される体

星野 雅香 議員
2025年問題への不安を解消する体制構築を

―地域包括ケアシステムの構築により、在宅生活を支援―

問 2025年に団塊の世代が75歳以上になり、病院や介護施設が不足する等の大変な時代を迎える。このことを見据えて、地域包括ケアシステムを構築するとのことだが何を指すのか。

答 医療や介護、生活支援サービスが適切に提供される体

山内 智彦 議員
刈谷の資源を有効活用した魅力づくりへの取り組みについて

―人とエリアを有機的に結合させる施策を期待―

問 今後、予定されている歴史博物館建設や城址公園としての亀城公園整備について、本来の目的を改めて伺いたい。

答 歴史に学び、文化的に貴重な財産を未来へ継承すること、魅力あるまち、誇りの持てるまちにしていきたいと考えている。また未来を担う子どもたちに我がまち刈谷への誇りと愛着を育んでもらうためのシンボ

生活習慣や文化も理解してもらい、日本で自立して生活できる力をつけてもらいたいと考えている。また、児童生徒だけでなく保護者も安心して働けるように、多文化共生の視点から学習支援策を研究していく。



プレクラスの様子

星野 雅香 議員
2025年問題への不安を解消する体制構築を

―地域包括ケアシステムの構築により、在宅生活を支援―

問 2025年に団塊の世代が75歳以上になり、病院や介護施設が不足する等の大変な時代を迎える。このことを見据えて、地域包括ケアシステムを構築するとのことだが何を指すのか。

答 医療や介護、生活支援サービスが適切に提供される体

黒川 智明 議員
道路整備計画策定から実現まで、できるだけ早いプロセスを

―渋滞緩和、交通安全、経済効果などの観点から整備を進める―

問 本市は中心市街地に車が集まる道路形態となっており、渋滞が慢性化している。道路の計画立案から実現までのプロセスを早くすることで、経済効果が増すと考える。基本構想から28年が経過する南北縦貫道路は、整備区間の優先順位をどう考えているか。

答 南北縦貫道路は、既存道路の渋滞緩和など効果が見込まれる。整備区間に関わる河川整備等の協議や、交通安全を考慮しながら順次進めている。

野村 武文 議員
市民の生活に密着した事業の推進を

―機会を捉え市民が利用しやすい施設整備に努めていく―

問 歩道のバリアフリー化の整備状況と重原横断歩道橋の進捗状況は。また、駅のバリアフリー化と公園へのオストメイト対応トイレの設置状況は。

答 歩道のバリアフリー化については、今までも進めてきたが、引き続き舗装工事や改修工事に合わせて進めていく。重原横断歩道橋は現在、工事に着手しており、27年度末に完成予定である。また、駅のバリアフリー化は、逢妻駅を残すのみとなっており、オストメイト対応トイ

黒川 智明 議員
道路整備計画策定から実現まで、できるだけ早いプロセスを

―渋滞緩和、交通安全、経済効果などの観点から整備を進める―

問 本市は中心市街地に車が集まる道路形態となっており、渋滞が慢性化している。道路の計画立案から実現までのプロセスを早くすることで、経済効果が増すと考える。基本構想から28年が経過する南北縦貫道路は、整備区間の優先順位をどう考えているか。

答 南北縦貫道路は、既存道路の渋滞緩和など効果が見込まれる。整備区間に関わる河川整備等の協議や、交通安全を考慮しながら順次進めている。

山内 智彦 議員
刈谷の資源を有効活用した魅力づくりへの取り組みについて

―人とエリアを有機的に結合させる施策を期待―

問 今後、予定されている歴史博物館建設や城址公園としての亀城公園整備について、本来の目的を改めて伺いたい。

答 歴史に学び、文化的に貴重な財産を未来へ継承すること、魅力あるまち、誇りの持てるまちにしていきたいと考えている。また未来を担う子どもたちに我がまち刈谷への誇りと愛着を育んでもらうためのシンボ

生活習慣や文化も理解してもらい、日本で自立して生活できる力をつけてもらいたいと考えている。また、児童生徒だけでなく保護者も安心して働けるように、多文化共生の視点から学習支援策を研究していく。



介護支援ボランティア(はつらつサポーター)の活動の様子

などの不安があり、在宅への期待と現実とのギャップがある。これらの不安をどう解消するの
答 「住み慣れた地域での支援体制づくり」として、地域のボランティアや住民団体の共助などの地域力で高齢者の生活を支援する介護予防、日常生活支援総合事業、在宅医療介護連携や認知症対策を重点施策として推進していくことで高齢者等の
新村 健治 議員
災害時における医療救護体制は

―小中学校の保健室を利用し、医療救護所を設置する―

問 災害時において、避難所に要救護者が存在する場合、医師・看護師が治療に当たる救護所は開設されるのか。また、医療救護にかかる医療関係団体との協定はどうか。

答 医療救護所は市内で最大5カ所の小中学校の保健室を利用して設置することとしている。また、市内の医師会及び歯科医師会との協定では医療救護班を編成して派遣すること、薬剤師会との協定では医薬品など必要な物資を供給するともに人材

野村 武文 議員
市民の生活に密着した事業の推進を

―機会を捉え市民が利用しやすい施設整備に努めていく―

問 歩道のバリアフリー化の整備状況と重原横断歩道橋の進捗状況は。また、駅のバリアフリー化と公園へのオストメイト対応トイレの設置状況は。

答 歩道のバリアフリー化については、今までも進めてきたが、引き続き舗装工事や改修工事に合わせて進めていく。重原横断歩道橋は現在、工事に着手しており、27年度末に完成予定である。また、駅のバリアフリー化は、逢妻駅を残すのみとなっており、オストメイト対応トイ

黒川 智明 議員
道路整備計画策定から実現まで、できるだけ早いプロセスを

―渋滞緩和、交通安全、経済効果などの観点から整備を進める―

問 本市は中心市街地に車が集まる道路形態となっており、渋滞が慢性化している。道路の計画立案から実現までのプロセスを早くすることで、経済効果が増すと考える。基本構想から28年が経過する南北縦貫道路は、整備区間の優先順位をどう考えているか。

答 南北縦貫道路は、既存道路の渋滞緩和など効果が見込まれる。整備区間に関わる河川整備等の協議や、交通安全を考慮しながら順次進めている。

山内 智彦 議員
刈谷の資源を有効活用した魅力づくりへの取り組みについて

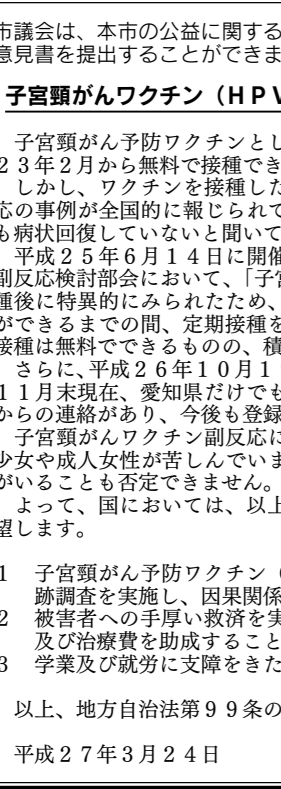
―人とエリアを有機的に結合させる施策を期待―

問 今後、予定されている歴史博物館建設や城址公園としての亀城公園整備について、本来の目的を改めて伺いたい。

答 歴史に学び、文化的に貴重な財産を未来へ継承すること、魅力あるまち、誇りの持てるまちにしていきたいと考えている。また未来を担う子どもたちに我がまち刈谷への誇りと愛着を育んでもらうためのシンボ

生活習慣や文化も理解してもらい、日本で自立して生活できる力をつけてもらいたいと考えている。また、児童生徒だけでなく保護者も安心して働けるように、多文化共生の視点から学習支援策を研究していく。

生活習慣や文化も理解してもらい、日本で自立して生活できる力をつけてもらいたいと考えている。また、児童生徒だけでなく保護者も安心して働けるように、多文化共生の視点から学習支援策を研究していく。



子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)副反応被害者救済と接種後の全体調査を求める意見書